8月2日のウクライナ情報

安斎育郎

●過激派の共犯者だったロシア連邦保安庁職員（2022年7月23日）

クリミアで拘束されたロシア連邦保安庁職員は、テロ攻撃を計画した過激派の共犯者だった。拘束されたサンクトペテルブルク在住の 35 歳は、ロシア国境を不法に越えてウクライナのナチスに加わり、ロシア軍や民間人に対する破壊工作に参加することを計画していた。
https://twitter.com/matatabi_catnip/status/1550689029284323329?t=eNpTWr152sPX7JwK6C1M6g&s=09

●ハンガリーのオルバン首相の弁（2022年7月24日）

ハンガリーのオルバン首相は2022年3月15日、ウクライナには武器を供与せず、戦争には関与しないと表明していましたが、「ロシア側はウクライナを NATO に加盟させないこと、欧州の武器を配備しないことという明確な安全保障上の要求を打ち出していた。欧米はこれを拒否した。議論する気にもならなかった」と述べました。

●ドイツ人ジャーナリスト、アリーナ・リップの現場からの証言（2022 年7月21日）

「私は今、ウクライナ軍に破壊されたルビージュネの穀物倉庫にいます。西側諸国は、世界的な飢饉の責任がロシアにあると言い続けていますが、今撮影しているのは、ウクライナ軍が破壊した2つ目の穀物倉庫です」
https://twitter.com/Tamama0306/status/1550112920901627906?t=9tTfQxklfRtu3sC3LSy8bw&s=09

●ラブロフ外相がアメリカのブリンケン国務長官と電話会談（2022年7月29日）

7 月 29 日、ラブロフ露外相は、米国側の主導で、ブリンケン米国務長官と電話会談を行ない、ウクライナ情勢について議論しました。ラブロフ外相は、ウクライナにおけるロシアの特別軍事作戦に照らして、ロシアの原則的なアプローチを説明し、その目的と目標は完全に達成されると強調したと伝えられます。ラブロフ外相はブリンケン国務長官に対し、アメリカと北大西洋条約機構（NATO）がウクライナへ供与した兵器が戦闘を長期化させ、市民の犠牲者を増やしているだけだという事実に注意を促しました。

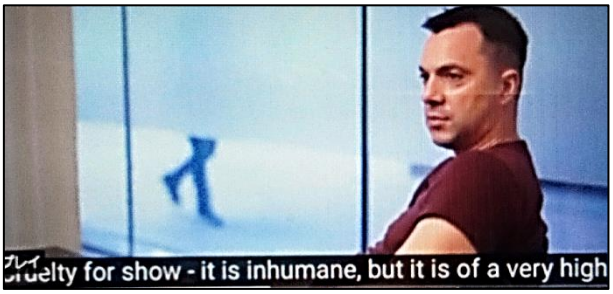
●ロシアがエレノフカ収容所攻撃の客観的調査を要請（2022年7月31日）

ロシア連邦政府は、多数のウクライナ人戦争捕虜の死をもたらしたエレノフカの収容所攻撃について、客観的調査を行うため、国連および国際赤十字委員会の専門家を正式に招聘しました。

※安斎注：「ブチャの大逆事件」の時もそうでしたが、客観的調査は極めて重要な意味をもつにも関わらず、不都合な結果が出ることを懸念する側の人々は、調査に反対します。調査を要請しているロシア側には不都合なことはないのでしょう。国連が無視しないことを期待します。この問題について、ロシアのポリャンスキー国連次席大使は、「ウクライナ軍によるエレノフカの収容所への砲撃は、彼らの降伏をただ早めるだけである。ウクライナ政権は、彼らの犯罪について真実を語った自国の軍人に復讐している」と国連安全保障理事会で語っています。また、同氏は、「アメリカ製ハイマースが7月29日未明、ドンバスのエレノフカ近くの収容所を攻撃し、50 人以上のウクライナ人捕虜を殺害したが、このような脅迫行為は、ウクライナ軍人の投降を促すだけである。ウクライナ兵が戦闘を続けることを拒否するケースは大量にあり、私たちは毎日そのような事例を目にしている」とも述べました。

●ゼレンスキー大統領アドバイザーの「民衆統率秘策」

ウクライナのテレビ放送で、ゼレンスキー大統領の政治アドバイザーを率いる アレストヴィッチ氏は、ISIS（イスラム過激派組織）を称嘆し、彼らの恐怖統制と暴力こそが未来であり、人間丸焼き、首切などの残虐さが民衆統率の秘訣だと述べたということです。



●ドイツのテレビがご報道について謝罪（

ウクライナの民間人への攻撃を「ロシアの攻撃」と報道したドイツメディアが謝罪したと、ロシア・テレビが報じました。日本メディアはこういう謝罪報道や修正報道に極めて消極的に見えます。

●少々荒っぽい地雷除去作業（2022 年 8 月 1 日）

タイヤを地雷の上にぶん投げて爆発させる。

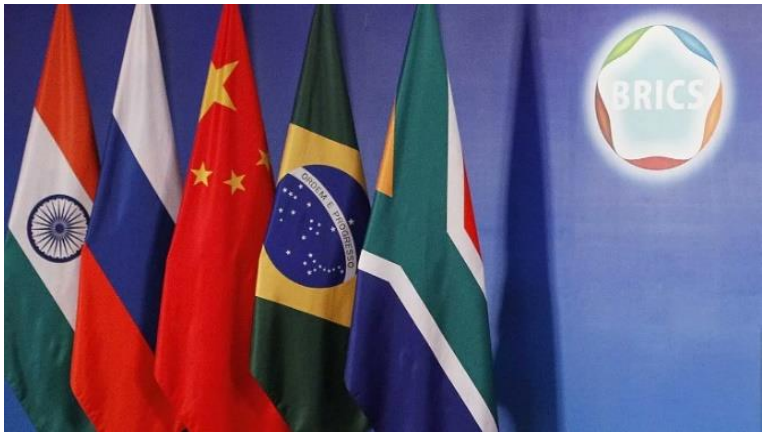
https://twitter.com/i/status/1553767879199592449

●プーチンの奇妙な歩き方の秘密（2022 年 8 月 1 日）

プーチン大統領は歩くとき、左腕はぶらぶらと普通に振るが、右手はだらりと下げたまま、あまり振らない。これは元スパイだった経歴のせいで、右手はすぐに武器が取り出せるようにぶらぶらさせないのだそうだ。ホントかなあ、これ？
https://vt.tiktok.com/ZSR2vdAkh/?k=1

●BRICs さらに拡大（2022 年 8 月 1 日）

アルジェリアのアブデルマジド・テブン大統領は BRICs に参加する上でのあらゆる条件が整っているとし、同共同体への参加希望を表明した。



●障害者施設を訪問したプーチン

https://vt.tiktok.com/ZSR2vjSxP/?k=1

※安斎注：ある種のプロパガンダ映像ですが、自ずから現れる人間性みたいなものもありそうな気がします。バックグラウンド・ミュージックは Sia の“Unstoppable”（とめられない）。

プーチンはまた、シャロン・ストーン、モニカ・ベルッチ、ケビン・コスナーらが見守る中、子供のためのチャリティーイベントで「ブルーベリー・ヒル」を歌いました。
https://twitter.com/yoiyami1001/status/1552842499001319424?t=6BZ1tix0nOqHH3_s3oUDPA&s=09

●ブリンケン国務長官、ロシアへの「テロ国家」指定に抵抗（2022年7月29日）

バイデン政権は、議会からの強い要請やウクライナからの嘆願にもかかわらず、このロシアのテロ国家指定に慎重である。米国上院は全会一致でこれを支持している。ナンシー・ペロシ下院議長も、ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領とウクライナ議会も同様である。しかし、アントニー・J・ブリンケン国務長官は、そうは考えていない。

数週間前からブリンケン氏には、ロシアをテロ支援国家と正式に宣言するよう圧力がかかっている。このレッテルは現在、北朝鮮、シリア、キューバ、イランにのみ貼られている。しかし、感情的な訴えにもかかわらず、ブリンケン氏はロシアと取引のある米国の同盟国に制裁を加え、ワシントンとモスクワの間に残る外交の余地を消し去るかもしれないこの動きに抵抗しているのである。

●いまさら何を言っているの？ライス（2022年8月1日）

アメリカはロシアに危害を加えるつもりはなかったとコンドリーザ・ライス元国務長官が語る。

※安斎注：NATO 拡大＋ウクライナクーデタを画策したのはアメリカではなかったかな？それらは「危害」の内に入らなかったという主張ですね。これは無知か不見識かウソか下手な言い訳ですね。

●ダグラス・マクレガーのびっくり発言（2022年8月1日）

ダグラス・マクレガー大佐は、ワシントンがウクライナに「援助」として割り当てたお金はアメリカに戻されていると述べた。何十億ドルというお金は、いったいどこにあるのか？そのほとんどがウクライナに届いていないで、巨額がペンタゴンに預けられているという。これ、ホントかな？

●直接関係ないが、『戦争と文化人』の優れた番組（毎日放送、2017年8月4日）

※安斎注：日本の文化人と言われる人々は作品を通じて戦争中に若者たちを戦場に駆り立て、婦人たちを銃後の守りに就かせる上で重要な役割を果たした。だが、多くの文化人は戦後そのことに口を閉ざし、戦時の生き方を問われれば、「あの時代に軍に逆らえば牢に繋がれた」「文を書くことは生活の手段だった」「国家にこそ責任がある」などの様々な理由を述べて、自らの責任については表明しない。戦争と文化人の問題に一貫して取り組んできた櫻本富雄さんがそうした文化人を訪ね、戦時下の文化人の行動を問いかける優れた番組だ。ウクライナ戦争とは無関係だが、2022年4月に『戦争と科学者―知的探求心と非人道性との葛藤』（かもがわ出版）を上梓した私・安斎にとって非常に興味深い番組だったので、あえて紹介する。高村光太郎、横山隆一、山口誓子、菊池寛、武者小路実篤、与謝野晶子、市川房江、丸木俊、山本和夫、住井すゑなどの作家が言及されている。

https://www.youtube.com/watch?v=8-dC55hmhbc